

令和3年度 学校評価 自己評価

評価基準 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

I. 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	3.8
2. 学校における職業教育の特色は何か	
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	

II. 学校運営

評価項目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.1
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	

III. 教育活動

評価項目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	

評価項目	評価
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	

IV 学修成果

評価項目	評価
1. 就職率の向上が図られているか	3.2
2. 資格取得率の向上が図られているか	
3. 退学率の低減が図られているか	
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	

V 学生支援

評価項目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.0
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	

評価項目	評価
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.0
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	
7. 保護者と適切に連携しているか	
8. 卒業生への支援体制はあるか	
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	

VI 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	
3. 防災に対する体制は整備されているか	

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	3.7
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
3. 学納金は妥当なものとなっているか	

VIII 財務

評価項目	評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3.5
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	

評価項目	評価
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	3.5
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	

IX 法令等の遵守

評価項目	評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
4. 自己評価結果を公開しているか	
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	

令和3年度 国立療養所多磨全生園附属看護学校 学校評価

学校関係者評価委員会による評価

1. 日 時：令和4年3月8日（金）15：50～16：40
2. 場 所：事務本館2階第2会議室
3. 出席者：評価委員：4名
 学校職員：7名
 議長：評価委員長 書記：教官

4. 議題

1) 令和3年度看護学校運営についての最終評価

(1) 自己評価

- ・新カリキュラムを見据えた現行シラバスと現行実習要項の修正を行った。カリキュラム改正準備は若干遅れているため、次年度は5月の連休明けから8月中に計画的にカリキュラム改正準備を進めていく。
- ・シラバス、実習要項作成過程に於いて新カリキュラムの考え方や授業構成の仕方など教官へ指導し教員の資質向上に努めた。次年度は教官の臨床研修を進めていく。
- ・前期の課題であった健康管理規程等を改正した。30～50代の学生が多いため、生活習慣病早期発見を考慮した検査項目を実施している。
- ・カウンセラーの設置は進んでいないが、次年度中には全生園職員と学生が利用できる相談室が設置される予定。
- ・コロナ禍でストレスの溜まりやすい入所者へボランティア活動を積極的に行った。他職種と協働する看護を学ぶうえで、入所者や看護部以外の職員との関係性を構築することが全生園での実習を効果的に行う土台となることが分かった。
- ・看護観の発表会やハンセン部研究発表会に学校長や看護師長、実習指導者に参加していただき学生の学習意欲が高まった。今後も園職員の方と協働する企画や参加していただく授業を計画していきたい。

(2) 評価委員の評価

- ・休職者が出たため実働教官が不足した。次年度の教官の補充は計画されている。
- ・臨地実習から急遽学内実習や全生園の実習に変更になった。全生園手術室での患者体験や術直後のシミュレーション学習など、よい取り組みが行われている。全生園内で行った在宅看護論実習も全生園の医療・看護・介護の特徴を理解することができたので良かったのではないかと。
- ・学習内容が選択できるなど、柔軟なカリキュラムを作成している大学が増えている。全生園の特徴ある新カリキュラムや安い学費をアピールして学生確保のチャンスを広げてはどうか。

(3) 評価を受けて

- ・全生園での在宅看護論実習は、新カリキュラムの実習方法を前倒しにして実施した。組織間の連携は効果的に学ぶことができたが、全生園の医療・看護・介護のシステムを介護保険に結びつけるところに課題があった。それらを改善し魅力ある新カリキュラムを作成していきたい。
- ・新カリキュラムの特徴、シミュレーション教育の実際、安い学費などを積極的に受験生へアピールしていく。